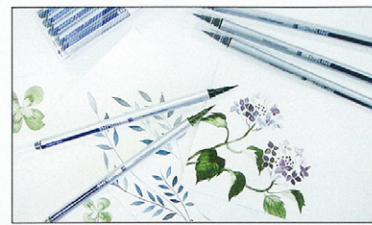
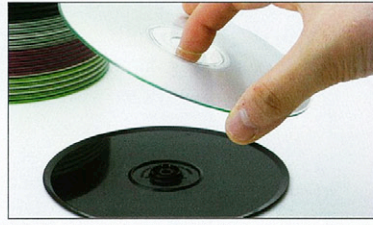




サンスター文具 株式会社/バインダーボールメモセット
メモとペンを手軽に一体化させた商品は過去いくつもあったが、究極の一体化標準メモとペン。メモ本体の前面がバインダークリップになっていて邪魔にならないコンパクトな作り。モノマガジン編集部員も必携のグレモノ。



株式会社 あかしゃ/あかしゃ水彩毛筆筆用ThinLINE 5色セット
かつての筆ペンと違い、書道を感じさせないスタイリッシュな本格毛筆タイプの筆ペン。手軽に描く文字が楽に書け、細い線が引ける機能性も併せて持っている。実用書や写経、カリグラフィやスケッチまで用途は無限に広がる。



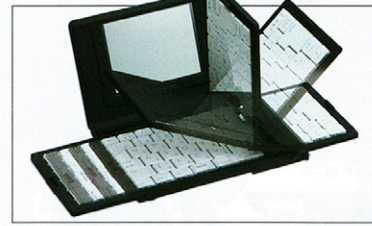
株式会社 PlasticArts/M-pad(エムパッド) 透明メディア(パッド)
メモとペンが楽に一体化できる。記録がケースなしでカバーでき、重ね置きも便利です。オプジェクトのように整理できる。片手で脱着できる。メディアの付け足しが簡単にできる。背面印刷可能でグッズとしても使える。



海外研究社 株式会社/ドイツ リラシ製色鉛筆「カラーストライプ」
知る人ぞ知るドイツはリラシの色鉛筆。モノマガジンの連載ページ「世界の傑作品」でも取り上げられている。品、黒の木軸と丸みのある角輪の辺りから色が見えるデザインなどは、さすがに無駄のないドイツブランドの底力を彷彿させる。



ヤマト 株式会社/メモクローラテープフィルムタイプ
付箋紙の折れやひららを解消。半透明のフィルムタイプで下を隠さずメモできるロール状の粘着タイプ。植物由来の生分解性プラスチックフィルムを使用し、環境にもやさしいエコジカルな商品。



株式会社 キングジム/デジタルメモ「ボメラ」
発売当初は品不足で買えないほどのヒット商品。デジタルメモと新しい分野を開拓。開いて2枚、キーボードでメモが取れるテキスト入力に特化した小型軽量メモ帳。モノマガジンの表紙でも何度も取材している画期的な製品。



米谷印刷工業 株式会社/YUMAIL
隙に点字があり、そこから紙を少しだけひっぱると、糸の力で離れでもきれいかつ簡単に封筒が開封できるスグレモノ。手紙でも個性を届けたいコタワリ派の方には理想的な手紙は箱。



マックス 株式会社/バイモ11 FLAT
普通紙40枚を押しで綴じられる画期的なホットキス。録取書の整理からレポート整理まで小型タイプでは不可能な綴じ枚数が可能となった。卓上ホットキスの機能を併せ持ちながらも小型でカラーバリエーションも豊富。

デザイン部門優秀賞

機能部門優秀賞

デザイン部門

[グランプリ]



マルマン 株式会社
ニーモシネ ノートパッドホルダー付A5
発売当初、業界ではその品質にも注目の逸品。切り取っても寸分の設計。コピーが邪魔ににくい本文印刷。切り取り可能なミシン目。カバー裏面を持った専用ホルダーにはメモ入れなどのポケット付。システム手帳との併用もふくむ使用用途は多い。ノートパッドとして在りそうではないになった開発論議点がスゴイ!

機能部門

[グランプリ]



日本理化学工業 株式会社
キット/スきっす12色
子供だけのお供がグッズとしても売れたが、大人も十分に楽しめる。空ガラスなどつるつるしたところに落書きしても濡れタオルで拭けば瞬く間に消えてしまうので、窓ガラスがキャンバスに早変わりする。知的玩具。書き味も大変良く、素材へのこだわりもあり子供も安心して使える。子供の心を育みたい。

第18回日本文具大賞「未来」を見据え、「今」を感じる文具

2009年7月8日(水)10日(金)に東京ビッグサイトで第20回回文房具・紙製品展が国際色豊かな大見本市として、今年も盛大に開催された。初日は会場内の特設ステージで、第18回日本文具大賞の表彰式が行われた。

写真・渋谷高橋 文モノマガジン編集部 協力ノリド エコビジョンジャパン株式会社

2008年8月1日以降に発表された新製品の中で、スタイリング、機能の2カテゴリーにおける優秀製品を品評し、選定するコンテストが「日本文具大賞」。今回18回を迎える本コンテストは内外の文具・紙製品の関係者だけでなく、一般ユーザーまで権威ある賞として注目されている。モノマガジンでは当初から、毎年めまめしく変わる文具の動向や傾向を取材。新たに生まれ、優れた文具製品の特集などで、表彰された製品を毎年紹介してきた。審査委員長は川崎和男氏。弊誌編集長も審査委員の一人として賞選定にモノマガジンの着眼点を参加している。本年度の受賞優秀製品は約200点の応募が審査を経て、選定され、その選定基準は「未来を見据えながら「今の時代」を意識した製品が受賞している。それでは本年度のグランプリ・優秀賞を紹介してゆこう。

川崎和男氏 審査委員長
川崎和男氏
審査委員長 川崎和男氏

2009.9.16「第18回日本文具大賞グランプリ・優秀賞発表」『モノマガジン』株式会社ワールドフォトプレス

Kazuo Kawasaki Ph.D.